

■ご挨拶

風力発電との20年間

日本風力発電協会 理事 中野 常夫

三菱重工業(株)エネルギー・環境ドメイン 再生エネルギー事業部 調査役



今年度より 理事を務めさせていただきます、三菱重工業の中野と申します。風力発電事業者の皆さま方、日本風力発電協会会員の皆さま方には、常日頃 大変お世話になっており 御礼を申し上げます。皆様の風力導入に向けての熱心なご努力が 現在の国内風力の伸長につながりおる事に改めて敬意を表させていただきます。



MWT-300 Wales, UK Since 1993

私事ではありますが、風力発電との出会いは1993年からの英国勤務よりでございます。英国は先の EU 離脱の国民投票結果でその動向に世界の注目が集まっておりますが、当時の英国国内は独仏と共に強固な EU 経済基盤作りへの期待、その為の英国の役割が盛んに論じられていました。欧州域内での風力の伸長の始まりも丁度この頃であり、EU 域内の人・金・物の自由な往来と共に風車の域内全域への広まりに相成ったものと思われまます。

日本の事業者さまが米英資本との合資でウェールズ州に建設運開したばかりの 300kW x103基、(出力 30MW 強ですが、この時代では欧州最大級の風力発電所との呼称でした) の担当となり、風景画をみるが如きの山々の稜線とゆっくり回る各風車の下に集う羊の群れの牧歌的景色のサイトでの月例会議に出席しておりました。

しかしながら会議の進行は、米国株主より派遣の米人所長殿が厳しく主導され、前月の稼働率確認、当月の予想とその更なる改善指示、頻度が多い機械の不適合の主因究明、再発防止、費用負担折衝等の内容が濃く、風力の専門的知識を習得する者にとり絶好の機会となりました。

事業者さまの運転員の方々、私共の保守員も当然のことながら地元出身であり、お子さんの誕生、結婚式等の祝宴参加、何気ないバーの止まり木での一杯を通じて心を通わせることができ、この仕事の原点を学ばせて頂きました。

このウェールズの実績は 1996 年 ドイツの事業者さまよりの試用機 450kW 機の受注に繋がりました。直後のマルクの高騰により オプションであった多数の商用機の受注迄は至りませんでしたでしたが、本商談を通じて大陸の方々の並々ならぬ風力導入への注力、ルール作り、産学一体の技術開発、人材の育成、地元市民の参加前提の楽しいショーの様な各地でのメッセを通じての情報発信、収集等 風力の大きな「うねり」を感じる事が出来ました。

2016 年、風車の主力は 20 年前の 300kW より 10 倍の 2-3MW、洋上用では 20 倍以上の 5 - 8MW、タワーの高さ、ブレードの長さも 2 倍、3 倍と大きくなりました。性能改善、安全確保の為の精緻な風況解析・監視、機器への反映、予防保全・保守等の各技術の向上は目を見張ります。

しかしこの 20 年間で一番大きな向上は欧米の一部でしかなかった風力の「うねり」が 中国、アジア、中南米、アフリカの各地に広がったことではないでしょうか。先進の諸国では もう「うねり」ではなく揺るぎない国の計画の下、市民より主要電源として認知されています。

我が国においても、皆さまのご尽力により「うねり」より、おおきな「ながれ」に変化しつつあります。引き続き 皆さまのご支援を得ながら 課題を潰しつつ国情にあった電源として市民に理解頂く様に協会活動のお手伝いをさせて頂きたいと思っております。ご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。